

外科 整形外科



科長
相澤 俊峰 教授

病棟 東病棟 11F

外来 外来診療棟A 3F 連絡先 022-717-7747(外来)

ホームページ <http://www.ortho.med.tohoku.ac.jp>

主な対象疾患

- 頸部脊髄症 ●腰部脊柱管狭窄症 ●腰椎椎間板ヘルニア ●胸椎後縦靱帯骨化症 ●胸椎黄色靱帯骨化症 ●脊椎・脊髄腫瘍
- 成人脊柱変形 ●反復性製肩関節脱臼 ●肩腱板断裂 ●凍結肩 ●変形性股関節症 ●特発性大腿骨頭壊死症 ●変形性膝関節症
- 膝靱帯損傷 ●膝半月板損傷 ●骨軟部腫瘍 ●感染性脊椎炎 ●感染性関節炎 ●関節リウマチ ●スポーツ障害 ●骨粗鬆症

診療内容

日本は世界に先駆けて超高齢社会を迎え、ただ生きているだけではなく、動けるからだを維持することが求められる時代になりました。自分のからだを自分の意思で動かすための部位(器官)には、関節やせぼねなどの骨格、それをつなぐ靱帯、それを動かす神経・筋が含まれます。これらはまとめて運動器と呼ばれます。整形外科はこの運動器の疾患を扱う診療科です。「外科系」の診療科ですが、外科治療である手術のみならず、内科的な治療(薬や理学療法)も行っています。診療対象としては、部位は脊椎脊髄、上肢、骨盤、下肢など全身に及び、年齢層は新生児から高齢者すべてが対象となります。高齢者にみられる骨粗鬆症、脊柱管狭窄症、変形性関節症等の変性疾患はもちろんのこと、外傷や若年者に多いスポーツ障害などにも積極的に取り組み、運動器疾患の予防・治療を通して人々の生活の質の向上に努めています。毎週の診療会議で治療方針を検討し、患者さん・ご家族の方々への十分な説明と同意のもと、治療にあたっています。また近年は体への負担が少ない手術(低侵襲手術)が求められる時代となり、関節鏡視下手術や脊椎内視鏡手術、悪性腫瘍に対する患肢温存手術を積極的に取り入れています。



脊椎外科手術中の写真

診療体制

当院整形外科は大きく7つのグループ(脊椎、股関節・小児、膝、肩、手・末梢神経、骨・軟部腫瘍、リウマチ・骨代謝)に分かれており、整形外科のほぼすべての分野、疾患を対称としています。各グループがそれぞれ専門外来を開設し、高度な知識と豊富な経験を持った整形外科医が、放射線診断科や病理、そしてリハビリスタッフと連携して治療にあたっています。また、宮城県を中心とする関連病院とも連絡を取り合い、患者さんに最適な治療を提供することを心掛けています。この4月からは隔週で金曜の午後に、スポーツ外来も始めました。

得意分野

脊椎脊髄グループ：腰部脊柱管狭窄症に対する除圧術や除圧固定術、成人脊柱変形に対する矯正骨切り術、胸椎後縦靱帯骨化症に対する新しい手術、等を行っています。低侵襲手術(脊椎内視鏡など)も行っています。
 股関節・小児グループ：変形性股関節症に対する人工股関節全置換術や臼蓋形成不全症に対する骨切り術などを行っています。
 膝グループ：膝前十字靱帯損傷に対する再建術や半月板手術、変形性膝関節症に対する人工膝関節置換術や各種骨切り術などを行っています。
 肩グループ：腱板断裂に対する内視鏡下腱板修復術や人工肩関節置換術、反復性脱臼に対する修復術などを行っています。
 骨・軟部腫瘍：骨や軟部組織に発生した良性腫瘍、悪性腫瘍および腫瘍類似疾患の治療を行っています。
 リウマチ・骨代謝グループ：リウマチで変形した手足の変形の矯正や、各種人工関節手術のほか、リウマチや骨粗鬆症に対する薬物療法を行っています。



整形外科のスタッフ

ご紹介いただく際の留意事項

■本院では画像のフィルムレスのシステムをとっております。患者さんをご紹介いただく際には、レントゲンやMRI等の画像はできる限りCD-ROM等の電子媒体の形で患者さんにご持参いただくようご手配願います。また当科外来は原則的に完全予約制でございますが、診断・治療に急を要する場合は電話でご連絡いただければ、適宜ご対応致します。